令和３年度　学校評価総括表　　伊丹市立みずほ幼稚園　　2022．3.9

| 教育目標 | 心豊かに、健やかに生きる子供の育成 |
|---|---|
| 重点目標 | （１）開かれ、信頼される幼稚園作り。　（２）みずほ幼稚園らしい教育の推進。<br>（３）豊かな心と体の育成。　（４）子供の育ちと学びをつなぐ連携。 |

| 項目 | | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学力の向上 | 自ら心を動かし育つ仲間の育成 | ・研究テーマ「心を動かし育ち合う子供を育む姿」を研究の視点とし、自ら感じ考え行動する子供の育成に努める。 | ・保育計画は月２回協議を行い、全職員で子供の姿について共通理解を図るとともに、意図した教師の援助や環境構成の工夫を行う。<br>・学級経営目標、研究テーマを年度当初に明確に設定し、自ら考え、環境に関わる力を育てる保育実践に取り組む。<br>・心を動かし育ち合う姿に繋がるための教師の援助や関わりの工夫について園内研究会を全クラス毎学期に１回行い、職員全体で学び合い、教職員の保育実践力を向上させる。 | ・月２回短期指導計画について協議をする機会をもち、子供の姿や課題について共通理解を図る。また戸外遊びの環境について共通理解する事ができるよう話し合う機会をもつ。<br>・保護者アンケートで、「子供は、幼稚園でやりたいことを見つけ、存分に遊んでいる」と回答した割合が 80%以上になる。<br>・事例研究を月１度のペースで行い、研究テーマを共通理解するとともに、全職員で研究や保育実践を深めていくようにする。 | B | ・月２回の短期指導計画の協議を行うことができない月もあった。しかし、子供の姿や課題などを職員間で共通理解するために、短期指導計画の協議以外でも話し合う機会を多くもつようにした。戸外遊びに関しては、遊びの環境図を作成し、今後も協議を重ね共通理解を図っていくことが必要である。<br>・保護者アンケートの結果は 80%以上の回答を得られたため、目標を達成する事ができた。<br>・事例研究に加え、全職員でエピソード研修を行うことで、研究や保育実践をより深め、研究テーマについて学びを深めるきっかけとなった。 | ・短期指導計画の話を定期的に行う時間を確保する。また、短期指導計画の協議以外でも、日頃の保育の中で子供の様子や課題について、全職員で話し合ったり、共通理解し合ったりする機会を大切にしながら保育実践に努める。<br>・今後も子供達が、遊びや環境に積極的に取り組むことができるように職員で連携し環境の構成及び幼児理解に努めていく。<br>・次年度は市内指定研究発表を控えているため、今後も継続して更に研究を深め、保育実践力を高めると共に、事例研究を重ねていくようにする。 | ・先生たちが子供のことを知ろうとすることが公立幼稚園の強みである。自分の学級以外の子供の話も職員皆ができるという力を保育に生かし、研究へと向かってほしい。<br>・幼児教育として大切なことが引き継がれている。 |
| | インクルーシブ教育・保育の推進と充実 | ・組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実に努める。 | ・学期に１回以上、なないろだよりを発行し、保護者にインクルーシブ教育・保育に対する理解推進、啓発を行う。<br>・担任と担当が連携し、幼児の実態把握をしながら、具体的な個別の支援について共通理解し、実践する。<br>・親子の関わりや個別の支援を目的としたにじいろ広場を計画的に行う。<br>・必要に応じ、学校園コンサルテーションを利用する等、外部機関との連携を図る。 | ・保護者アンケートで「幼稚園は一人一人の発達や課題に合わせ、その子に応じた指導を実践しようとしている」と回答した割合が 80%以上になる。<br>・週に１度は担任と担当が個別の支援について話をし、丁寧な保育を実践する。また、共通理解が必要なことは、適宜全職員に伝える。<br>・体幹を鍛える遊びや親子遊びを立案し、にじいろ広場を年間6回行う。<br>・幼児の実態や教師の要望に応じて、学校園コンサルテーションを年間３回は活用し、保育に生かす。 | A | ・保護者アンケートの結果は、90%以上の回答を得られたため、目標を達成することができた。<br>・担任と担当の話は、日々保育の振り返りをする中で話をすることができ、翌日からの保育に生かせた。しかし、全職員での共通理解の機会がなかなかとることができず、機会をとっていくことが今後の課題である。また、保護者と共に子供の育ちを支えていくためにも、保護者との連携も必要になってくる。<br>・にじいろ広場は、新型コロナの影響があり、5回しか行うことができなかった。しかし、子供の実態に応じて、保育内容や実施学年を工夫することができた。<br>・学校園コンサルテーションは、子供の支援についての相談だけでなく、個別指導計画の書き方についても学ぶことができ、大変有意義であった。 | ・個別の支援が必要な子供が増える傾向にあり、学級の３分の１が支援対象という状況もある。そのため、担任と担当の連携は不可欠である。また、他教師の手助けが必要な場面も多々あることから、保育計画の話をする際などに、インクルーシブ教育・保育についても話をする機会を今後も確保できるようにしていく必要がある。<br>・保護者と子供の実態や課題を共通理解し、支援の方向性を明らかにし、共に支援していけるようにする必要がある。そのために、担任と協力し合いながら、保護者と話をしたり、連絡帳を活用したりして、連携ができるようにしていく。 | ・対象児の人数が多いことからも、園としての取り組みを工夫していることが想像できる。今年度の学びを来年に生かしていってほしい。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 豊かな心・健やかな身体 | 人権教育の推進・充実 | ・子供・保護者へ人権教育を推進する。 | ・人権教育のテーマである、自分も友達も大切にすることや人への思いやりの気持ちを育てる保育を行う。<br>・園からの配布物を通して、保護者へ、人権教育につながる具体的な子供の姿や事例を紹介する（にこにこカードを使った取り組み、絵本や紙芝居などの教材を使った活動、栽培活動の様子など）<br>・保護者研修会参加を啓発する。 | ・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、子供が園生活を通して、自分を大切にすることや、他の人への思いやりの気持ちを育てる保育を行っている」の項目の回答が 80%以上になる。<br>・園と家庭とで協力して人権教育に取り組めるよう、毎月にこにこカードの目標を決め、ホールに掲示したり園だよりに掲載したりする。<br>・保護者研修会を一回行う。 | A | ・保護者アンケートで目標の 80%を上回ったため、達成できた。<br>・今年度はコロナの影響はあったが、「子供の権利条約」を通した書面研修を全保護者に向け実施し、感想をもらうことができた。<br>・人権教育につながる内容を配布物で伝えたり話したりすることができた。また、保護者が集まることが難しい状況もあったが、少人数ながらも保護者向けのサイバー研修を行うことができた。 | ・「子供の権利条約」を保護者に配信し、アンケートを集約した中で、上記条約を知らない保護者が多数いたことからも、来年度も配信を利用して啓発を続ける。<br>・学級懇談で人権をテーマに話す機会を１回は設け、身近なことを切り口にしながら、園での取り組みなども伝えるようにしていく。<br>・ブロックとして集まることは難しくても、自園のみでの研修を行い啓発する。 | ・コロナ禍でも、研修を紙面で行う工夫がされているのが素晴らしい。今の時代だからこそ、SNS などにおいても、一人一人の人権の保障は大切である。これからは、教育において子供とどう関わり、どう育てていくのかが一番大切である。 |
| | 体力の向上 | ・基礎的な体力の向上に努める。 | ・子供の実態に合わせて必要な動きの経験ができるよう、引き続き保育の中に運動遊びを計画的に取り入れる。<br>・わくわくタイム（異年齢で合同で体を動かす機会）行い、みずほ動物園や体操を取り入れる。 | ・保護者アンケートにおいて「運動遊びの楽しさを感じており進んで戸外で遊ぼうとする」の項目の回答が 90%以上になる。<br>・異年齢で取り組める体操やダンスを立案し、週に 1 回のわくわくタイムで行う。 | B | ・保護者アンケートで目標の 90%以上を上回ることができた。<br>・1、2 学期は、わくわくタイムを行ったことで、異年齢で合同で体を動かす機会が増え、好きな遊びでも異年齢でダンスや体操をすることへ繋がった。3 学期はわくわくタイムがあまりできなかった。<br>・体幹を育むみずほ動物園をする機会ももてなかった。 | ・わくわくタイムを継続して行い、異年齢で合同で体を動かす機会を大切にする。<br>・今後も全身を使い、体幹を鍛えられる運動遊びを計画的に取り入れる。<br>・様々な運動遊具に挑戦ができるような環境を工夫する。<br>・みずほ動物園について、必要であれば、どのタイミングで行っていくかを今後検討する必要がある。 | ・コロナ禍ということもあり、子供たちの体力が落ちてきているので、これからもわくわくタイムはじめ、体を動かすことは続けてほしい。<br>・自分よりも年上の友達を見て、真似て満足する経験が大切である。また、誰かに見てもらうことで意欲も育つ。今後も子供たちが関わりながら伸び伸びと遊ぶ時間を確保してほしい。 |
| | 基本的生活習慣の確立 | ・基本的な生活習慣を身につける。 | ・定期的に保健学習を実施する。<br>・4、5 歳児は定期的に、健康に関する目標を提案する「けんこうカレンダー」を配布し、親子で取り組んでもらう。3 歳児は、長期休業中に「がんばり表」を提案し、親子で取り組んでもらう。<br>・保護者への啓発として、月 1 回以上「ほけんだより」を配布する。 | ・「けんこうカレンダー」を親子で取り組んでいる家庭が 80%以上になる。<br>・保護者アンケートで「幼稚園での健康教育について、けんこうカレンダー、がんばり表やほけんだよりなどの啓発により、家庭での取り組みにつながっている」の項目の回答が 80%以上となる。 | A | ・80%以上の家庭が親子で取り組むことができた。<br>・保護者アンケートで 93%の評価を得ることができ、目標は達成できた。<br>・一部の家庭での取り組みを、「ほけんだより（けんこうカレンダー号）」で紹介することで、各家庭での取り組み方や子供の健康に対する取り組みを知ることによって、より効果的に取り組めていた。 | ・今後もその年度ごとの子供の実態に合わせ、保健学習、けんこうカレンダー、がんばり表の内容を検討する。<br>・今後も家庭への啓発を続けていくと共に、子供たちにも継続して取り組むように促す。<br>・子供たちの家庭での取り組みを知るためにも、家庭との連携を深める。 | ・保護者の意識に幅があり、両極化している難しさがある。しかし、基本的生活習慣を大切にしていることも公立幼稚園の一番の強みである。 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 開かれた信頼される園づくり | 教育活動への理解推進 | ・家庭や地域に積極的に情報発信する。 | ・登降園時に提示しているホワイトボードや、ホームページ等で写真を使い、園の子供達の様子を発信する。<br>・各クラスの様子を伝える為に毎月クラスだよりを発行し、保護者へ発信する。 | ・週に一度はホームページを更新し、更新した際には、保護者に関心をもってもらえるように登降園時のホワイトボードに書き発信する。<br>・保護者アンケートで「幼稚園の情報をわかりやすく保護者に伝えている」の回答が 85%以上になる。 | B | ・ホームページは毎週一回以上は更新できた。<br>・毎日登降園が個人であったということもあり、朝はホワイトボードにて帰りは各担任から連絡事項を伝えていたこともあり、A と B の合計では目標の 85%を上回った。<br>・連絡が不十分であったり、Google が導入されたことから、もっと活用してほしいという要望も多く、今後対応していく必要があるため B とした。 | ・ホームページに携わっている職員が限られているため、様々な立場や視点から少しずつ他の職員も携われるように検討する。<br>・降園時には、連絡を必要に応じて担任が口頭で伝えるだけではなく、あらかじめ各クラスの前にホワイトボードを出しておき、視覚的にも伝えていく。<br>・手紙や連絡事項など、急を要するものや、確実に伝えるべき内容に関しては、Google を利用していき、より保護者へ必要な連絡事項が伝えられる環境にしていく。 | ・Google の利用も良いのだが、人と人との対話も大切であると思う。<br>・今の時代には、大人も新しいことを学んでいくことは大切である。園として、どうしても保護者に伝えなければいけないことは、様々な手段で啓発していくことが大切である。 |
| | 子育て支援の推進 | ・家庭と地域と園とで連携した子育て支援の推進を行う。 | ・みんなのひろばを通して園児との触れ合いの場を設けていく。 | ・7 月から毎月行われる「みんなのひろば」では、好きな遊びの時間帯を「みんなのひろば」の時間と合わせ、互いに交流ができるようにする。<br>・保護者アンケートで「幼稚園は、職員に、子育てや子供の成長について相談や話をしやすい環境である」の回答が 80%以上になる。 | A | ・毎日保護者の方が送り迎えをしてくださることから、毎日顔を合わせる利点を生かして、少しの変化や様子で保護者へ積極的に声をかけ話をすることができた。<br>・職員全員で連携しながら保護者を支えていく体制づくりに努めた結果、A と B を合わせるとほぼ 100%の評価が得られ、A とした。 | ・「みんなのひろば」では、コロナの状況もあり、回数も少なく、なかなか園児と地域の子供たちが遊ぶことも難しかった。<br>・保護者とその日のうちに話ができていなかったり、連携が不十分な時がまだあるため、今後は、職員が互いに声を掛け合い、実態や課題を共通理解しながら、保護者や子供たちを支えていけるようにしていかなかればならない。 | ・子育てがしんどい家庭、家庭の中の状況がしんどい親子もいるのが現状である。「私のことを分かってもらえる」と保護者に思ってもらえるような、気持ちに寄り添った教師であってほしい。 |

**学校関係者評価総括**

・幼児期は、子供が親に話をしている姿など、親子の結びつきが一番大切である。また、親子が一番身近で過ごす時間でもある。子供たちの笑顔のために、自信をもって保育を続けていってほしい。

**次年度に向けた重点的な改善**

・幼稚園が大切にしていることや、保護者の協力が必要なことは、明確に発信していくことが大切である。
・コロナ禍で、どう活動するのか。どの一年も取り戻すことができない大切な一年なので、どのような状況下でも、保育を工夫し、子供の育ちを支えていかなければならない。